

## 海外の畜産物の需給動向

# 牛肉

### 米 国

## 26年2月の牛肉生産量は前年同月比4.3%減、26年予測も下方修正

### 26年2月の牛肉生産量は前年同月比4.3%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2026年2月の牛と畜頭数は217万頭（前年同月比6.6%減）とかなりの程度減少した。一方、同月の1頭当たり枝肉重量は406.4キログラム（同2.5%増）とわずかに増加した。この結果、同月の牛肉生産量は87万7000トン（同4.3%減）とやや減少した（図1）。と畜頭数の減少について、米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によれば、一部と畜場が稼働率向上による営業利益の改善のために、肥育牛と畜の操業日数を縮小していることが要因の一つであるとされ

ている。

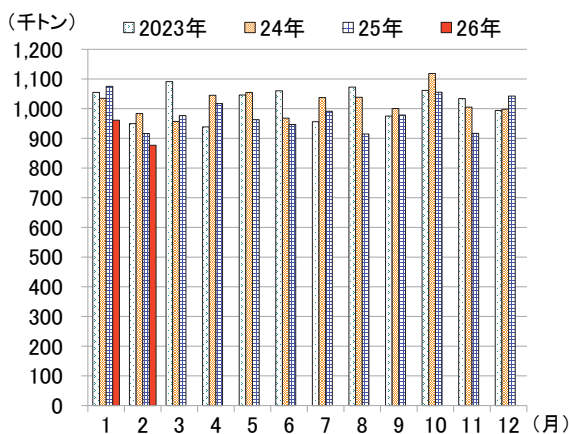
なお、米国の食肉業界大手JBSが運営するコロラド州の食肉処理施設において、3月に大規模なストライキが発生しており、牛肉の流通について一部混乱が生じる可能性がある。

26年の牛肉生産量についてUSDAは、前月予測から5万トン下方修正し1170万7000トン（前年比0.7%減）と見込んでいる。

### 26年2月の牛肉卸売価格は前年同月を大幅に上回って推移

USDA/ERSの公表情報によると、2026年2月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー<sup>(注1)</sup>）は、牛肉生産量が減少していることに加え、国内の牛肉需要が堅調である中で100ポンド当たり369.3米ドル（1キログラム当たり1310円：1米ドル＝160.88円<sup>(注2)</sup>、前年同月比16.1%高）と前年同月を大幅に上回った（図2）。また、肥育牛（ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢）の価格は、同247.9米ドル（同879円、同20.7%高）と前年同月を大幅に上回った。

図1 牛肉生産量の推移



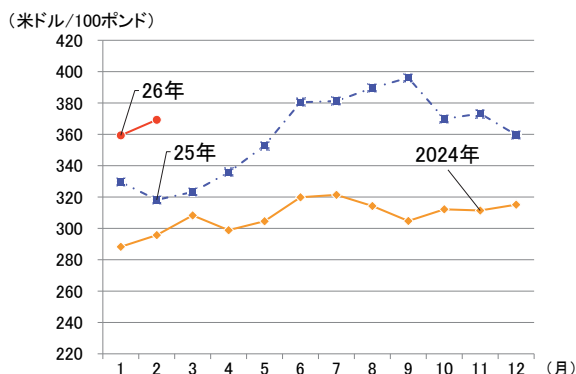
資料：USDA [Livestock and Meat Domestic Data]

注：枝肉重量ベース。

(注1) 各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年3月末TTS相場。

図2 牛肉卸売価格の推移



資料：USDA [Livestock and Meat Domestic Data]  
 注1：カットアウトバリュー（各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格）。  
 注2：チョイス級、600～900ポンド。

26年1月の牛肉輸出量は前年同月比15.1%減、輸入量は7.7%増

USDA/ERSによると、2026年1月の牛肉輸出量は8万8635トン（前年同月比15.1%

減）とかなり大きく減少した（表）。なお、中国向けについては中国海関総署（GACC）による更新期限を迎えた米国内の中国向け牛肉輸出施設登録の更新が引き続き行われていないことにより<sup>(注3)</sup>、1042トン（同94.5%減）と同国への牛肉輸出の大部分が停止している状況にある。26年の牛肉輸出量についてUSDAは、米国国内における牛肉生産量の減少や肉牛価格の高騰、米ドル高で推移する為替相場の影響を受けるとし、108万6000トン（前年比7.1%減）とかなりの程度減少すると予測している。

(注3) 5年ごとの認可登録の更新時期を迎えていた2025年3月、GACCにより豚肉・鶏肉の輸出施設の認可登録が更新された一方で、牛肉の輸出施設の一部については未更新の状況が続いている。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2025年1月	26年1月	前年同月比(増減率)	輸出割合
韓国	23,549	23,235	▲1.3%	26.2%
日本	22,543	20,297	▲10.0%	22.9%
メキシコ	11,178	10,860	▲2.8%	12.3%
カナダ	8,757	8,171	▲6.7%	9.2%
台湾	4,259	6,483	52.2%	7.3%
香港	2,885	5,064	75.5%	5.7%
グアテマラ	1,145	1,345	17.5%	1.5%
ドミニカ共和国	1,017	1,308	28.5%	1.5%
インドネシア	92	1,046	1038.6%	1.2%
中国	18,828	1,042	▲94.5%	1.2%
その他	10,162	9,783	▲3.7%	11.0%
合計	104,414	88,635	▲15.1%	100.0%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]  
 注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 国際調査グループ)

## 豪州

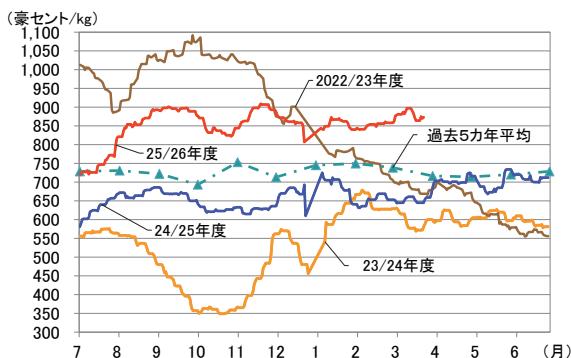
# 牛肉の生産見通しは好調も、足元は中東情勢などで不透明感

## 26年3月の若齢牛価格、天候の乱れにより不安定化

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、直近2026年3月25日時点で1キログラム当たり873豪セント（975円：1豪ドル＝111.68円<sup>（注1）</sup>）と高値を維持しているものの、3月を通じて価格変動を繰り返し、不安定に推移している（図1）。

報道によると、3月第1週目に主要肉用牛生産地域であるクイーンズランド（QLD）州を含む豪州北部地域で広範囲に豪雨が発生し、複数の競売場が開催を取りやめたことで一時的に出荷頭数が急減し、価格が上昇したとされている。その後、競売場の再開で出荷頭数が回復して下落トレンドに移行し、直近では、また上昇の兆しを見せている。

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」  
注1：年度は7月～翌6月。  
注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格（枝肉重量ベース）。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

今後については、中東情勢による軽油の高騰により、長距離家畜輸送の料金は1キロメートル当たり10豪ドル（1117円）上昇しているとされており、家畜の売買が停滞する可能性があるとして報じられている。また、生活コストの上昇による牛肉需要の減少など、多方面での影響が懸念されており、牛価格の見通しも不透明なものとなっている。

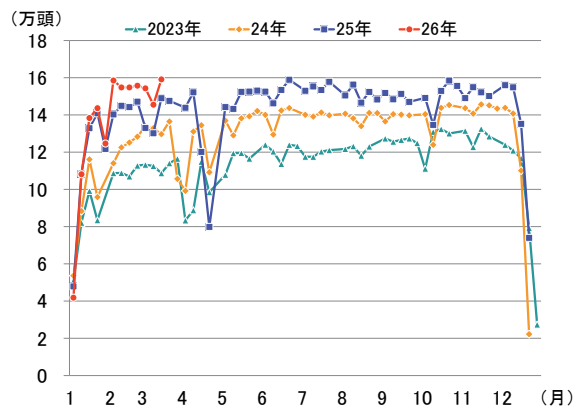
（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年3月末TTS相場。

## 豪州の成牛と畜頭数、26年は過去最高を更新する予測

2026年3月第3週の成牛と畜頭数は、15万9113頭（前年同期比6.8%増）と、先月から引き続き高水準で推移している（図2）。

MLAが3月24日に発表した業界見通しによると、26年のと畜頭数は945万頭に達するとしており、これは過去最高を記録した

図2 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」  
注1：成牛のみ（子牛は含まない）。  
注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

25年を上回る水準となっている。MLAは、以前の予測では26年のと畜頭数は減少に転じる見込みとしていたが、年初来の処理頭数は前年同期比で約5%増加と、予測とは異なる動向を示しており、これは肥育牛の堅調な需要と価格が生産者の出荷意欲を高めているためと分析している。この結果、牛肉生産量も過去最高を更新すると予測されている。

### 26年の牛肉輸出量、堅調に推移も中国向けや中東情勢に不透明感

豪州農林水産省（DAFF）によると、2026年2月の牛肉輸出量は13万884トン（前年同月比11.4%増）となり、2月としては過去最高を記録しており、引き続き高い水準で推移している（表）。

この結果は、米国向けが3万9952トン（同13.8%増）と引き続き堅調であることに加え、中国向けが2万7018トン（同26.4%増）と大幅に増加したことが背景にある。一方で、

1月に引き続き、中国の新たなセーフガード措置<sup>(注2)</sup>による駆け込み需要から予測されていた急増には至っておらず、輸出業者がリスク低減のため早期に他市場へシフトしているという見方や、本格的な荷動きの変化は3月以降とする予測もある。また、5月ごろにはセーフガード枠が埋まるという観測もあり、その際に北米やアジア、中東市場がどこまで受け皿となれるか、現地アナリストも動向を注視している状況にある。

なお、中東向けについては、3098トン（同19.0%増）と大幅に増加したものの、今般の中東情勢を受け、3月以降の動向は不透明とされている。中東経由で欧州などへの貨物ルートもあるとされており、影響が長期化すれば、燃料や肥料の価格高騰も牛肉輸出全体に悪影響を及ぼすとみられている。

（注2）詳細については、海外情報「中国の新たなセーフガード措置に対する豪州の反応（豪州）」（[https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_004262.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004262.html)）をご参照ください。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2025年 2月	26年 2月	前年同月比 (増減率)	26年 (1～2月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同月比 (増減率)
米国	35,092	39,952	13.8%	63,700	6.6%
中国	21,373	27,018	26.4%	43,654	20.3%
日本	20,115	20,026	▲0.4%	34,589	▲3.7%
韓国	17,778	18,510	4.1%	31,610	11.4%
東南アジア	10,071	8,903	▲11.6%	14,777	▲9.2%
中東	2,604	3,098	19.0%	5,476	11.1%
E U	1,322	2,268	71.6%	3,730	56.6%
その他	9,147	11,109	21.5%	17,691	21.1%
輸出量合計	117,502	130,884	11.4%	215,227	8.4%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ））。

（調査情報部 国際調査グループ）

## 25年の牛と畜頭数および牛肉輸出量は増加

### 25年の牛と畜頭数は前年比6.4%増

ウルグアイ食肉協会（INAC）によると、2025年の牛と畜頭数は240万1000頭（前年比6.4%増）と前年をかなりの程度上回り、22年以降続いた減少傾向が増加に転じることとなった（図1）。特に雌若齢牛（同17.4%増）や雌成牛（同8.9%増）の増加が顕著であった一方で、子牛（同3.8%減）は減少した（表1）。と畜頭数増加の要因は、

図1 牛と畜頭数の推移

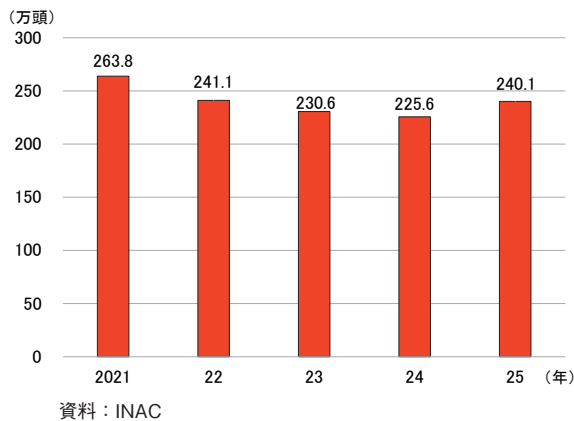


表1 牛と畜頭数の内訳

(単位：頭)

区分	2024年	25年	前年比 (増減率)
去勢牛	1,142,498	1,166,255	2.1%
雌若齢牛	299,324	351,297	17.4%
雌成牛	773,219	842,108	8.9%
子牛	6,783	6,528	▲3.8%
雄成牛	34,299	34,707	1.2%
合計	2,256,123	2,400,895	6.4%

資料：INAC

注1：2025年3月14日時点。

注2：去勢牛には枝肉の筋肉量と脂肪量が一定基準を超える170kg以上の子牛も含まれる。

雌若齢牛は永久歯が4本（約2歳半）以下のもの。

雌成牛は永久歯が6本（約3歳半）以上のもの。

子牛は去勢牛に分類されるものを除く永久歯がないもの。

雄成牛は永久歯を有しており、雄らしい二次性徴が見られるもの。

牛肉生産量の約8割を輸出している中、米国およびEUにおける需要の増加とされている。

### 25年の牛肉輸出量は前年比11.0%増

2025年の牛肉輸出量は、38万7312トン（前年比11.0%増）と前年をかなり大きく上回った（表2）。

輸出先別に見ると、最大の輸出先である中国向けは、15万320トン（同0.6%増）と前年をわずかに上回ったものの、全体に占める割合は38.8%（同4.1ポイント減）に減少した。一方、次いで輸出量が多い米国向けは、12万184トン（同26.0%増）と前年を大幅に上回り、全体に占める割合は31.0%（同3.7ポイント増）に増加した。米国農務省（USDA）によると、米国向け輸出量が増加した要因は、米国内での牛肉供給のひっ迫による堅調な需要があるためとされている。加えて、米国が25年4月から11月までブラジル産牛肉に対して追加関税を課したため、ウルグアイ産牛肉の需要が高まり、一定量のウルグアイ産牛肉が中国向けから米国向けに振り替えられたという<sup>(注1)</sup>。また、米国内の牛群再構築までには時間を要するため、26年も引き続き米国でのウルグアイ産牛肉の需要は維持されると予測している。

(注1) 詳細は海外情報「牛肉を含む特定の農産物などに対する相互関税およびブラジル向け追加関税を撤廃（米国）」([https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_004247.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004247.html))をご参照ください。

表2 牛肉輸出の推移

国名	2024年			25年			前年比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量	輸出額	単価
中国	149,495	621,360	4.16	150,320	715,056	4.76	0.6%	15.1%	14.4%
米国	95,413	579,915	6.08	120,184	866,605	7.21	26.0%	49.4%	18.6%
オランダ	17,852	186,427	10.44	24,767	280,652	11.33	38.7%	50.5%	8.5%
イタリア	8,003	65,406	8.17	12,205	122,400	10.03	52.5%	87.1%	22.7%
イスラエル	15,254	103,856	6.81	11,347	94,709	8.35	▲25.6%	▲8.8%	22.6%
カナダ	8,464	40,778	4.82	9,699	59,175	6.10	14.6%	45.1%	26.6%
日本	6,795	39,312	5.79	6,082	38,786	6.38	▲10.5%	▲1.3%	10.2%
ブラジル	6,955	71,004	10.21	6,036	59,868	9.92	▲13.2%	▲15.7%	▲2.8%
英国	3,526	33,527	9.51	6,000	53,660	8.94	70.2%	60.1%	▲5.9%
その他	37,118	252,275	6.80	40,672	357,772	8.80	9.6%	41.8%	29.4%
合計	348,874	1,993,859	5.72	387,312	2,648,683	6.84	11.0%	32.8%	19.7%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード0201、0202の合計。

注2：製品重量ベース。

## 去勢牛生産者出荷価格は上昇傾向で推移

INACによると、2026年3月第2週（3月8～14日）の去勢牛生産者出荷価格は、1キログラム当たり5.75米ドル（925円：1米ドル＝160.88円<sup>（注2）</sup>、前年同期比28.4%高）と前年同期を大幅に上回った（図2）。USDAによると、この価格上昇は堅調な輸出需要によるものとされている。なお、ウルグアイは牛肉国内消費量の約3分の1を輸入で賄っており、食肉加工業者は牛肉を高値で輸出する一方で、ブラジルやパラグアイなどから安価な牛肉を輸入しているという。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年3月末のTTS相場。

図2 去勢牛生産者出荷価格の推移



資料：INAC

注1：枝肉重量ベース。

注2：図中の最新のマーカーは、2026年3月第2週（3月8～14日）1kg当たり5.75米ドルを示す。

（調査情報部）

# 豚 肉

## メキシコ

### 25年の豚肉消費量は堅調に推移、26年も前年比で増加見込み

#### 26年の豚肉生産量は前年比3.3%増の見込み

米国農務省海外農務局（USDA/FAS）は2026年2月26日、25年および26年におけるメキシコの豚肉需給見通しを発表した。これによると、25年は24年に発生した豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）や豚流行性下痢（PED）といった疾病の影響や収益性の悪化により、中・小規模の農家を中心に飼養頭数が十分に確保できなくなったことから、豚と畜頭数は1770万頭（前年比3.0%減）とやや、豚肉生産量は136万5000トン（同2.2%減）とわずかに、いずれも減少が見込まれている（表1）。26年は、生産コストの安定化、25年後半の耐病性を考慮した品種の導入による1腹当たりの産子数の増加が見込まれること

などから、飼養頭数が回復し、と畜頭数が増加するとみられる。このため豚肉生産量は141万トン（同3.3%増）とやや増加すると見込まれている。

また、25年の豚肉消費量は、所得の向上に加え、観光や外食需要が継続的に回復していることなどから、277万トン（同4.6%増）とやや増加すると予測されている。また、牛肉価格が過去最高水準を記録した中、豚肉は比較的安価である点も消費の追い風となっている。26年は、25年と同様の理由に加え、特に国内外での観光客の増加に伴い、外食をはじめとする食品産業による需要が高まっていることにより、豚肉の消費量は290万トン（同4.7%増）とやや増加すると予測されている。

表1 メキシコの豚肉需給の推移

（単位：万頭、万トン）

区分	2024年	25年	前年比	26年	前年比
			(増減率)		(増減率)
と畜頭数	1,824.9	1,770.0	▲3.0%	1,820.0	2.8%
供給量	286.5	296.5	3.5%	307.0	3.5%
生産量	139.5	136.5	▲2.2%	141.0	3.3%
輸入量	147.0	160.0	8.8%	166.0	3.8%
輸出量	21.6	19.5	▲9.7%	17.0	▲12.8%
消費量	264.9	277.0	4.6%	290.0	4.7%

資料：USDA/FAS「Gain Report」New Post

注1：2025、26年は予測値。

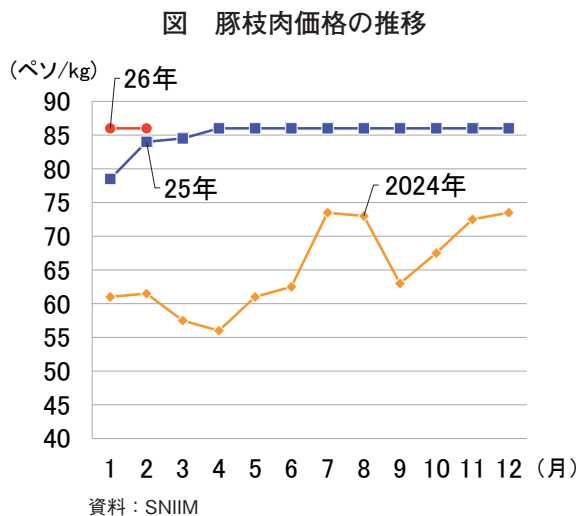
注2：枝肉重量ベース。

注3：昨年と同レポートに比べて値が小さくなっており、USDAの推計方法に何らかの変更があった可能性がある。

## 豚枝肉価格は高止まり、26年2月は前年同月比2.4%高

メキシコ国家情報市場統合システム(SNIIM)によると、2026年2月の豚枝肉価格は、1キログラム当たり86.0ペソ(845円:1ペソ=9.82円<sup>(注)</sup>、前年同月比2.4%高)とわずかに上回った(図)。国内の供給不足を背景に豚枝肉価格は高止まりしているものの、牛肉と比べると比較的手頃な価格を維持している。一方、同月の生体豚価格は、同45.9ペソ(451円、同17.9%安)と大幅に下回った。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年3月末TTS相場。



## 25年の豚肉輸出量は前年比10.5%減、輸入量は同10.4%増

2025年の豚肉輸出量は、15万2000トン(前年比10.5%減)とかなりの程度減少した(表2)。輸出先別に見ると、ロースなどが中心となる米国向けは3万トン(同6.8%増)となった。一方、メキシコ国内での価格が高止まりする中で、円安による購買力低下もあり輸出メリットが薄れた日本向けは10万7000トン(同13.9%減)、スペインからの豚肉輸入量を増加させている韓国向けは9000トン(同16.0%減)と、それぞれ減少した。同年の豚肉輸入量は、国内需要の高まりから、153万4000トン(同10.4%増)とかなりの程度増加した(表3)。輸入先別に見ると、地理的優位性のある米国やカナダからは米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA)により堅調な輸入が続く中、ブラジルからは7万5000トン(同76.9%増)と大幅に増加した。これは、メキシコ政府によるインフレ率上昇抑制策(PACIC)の下で、一時的にブラジル産豚肉の輸入関税が撤廃されていたことが有利に働いた。26年も国内需要が堅調に推移することから、収益性の高い国内向けの販売に注力する意向で、輸出量は減少が見込まれている。

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：万トン)

国名	2024年	25年	前年比	
			(増減率)	輸出割合
日本	12.4	10.7	▲13.9%	70.3%
米国	2.8	3.0	6.8%	19.4%
韓国	1.1	0.9	▲16.0%	6.1%
その他	0.7	0.6	▲10.7%	4.2%
合計	17.0	15.2	▲10.5%	100.0%

資料：「Global Trade Atlas」、BOL(船荷証券)に基づく集計値

注1：HSコード0203。

注2：製品重量ベース。

表3 輸入先別豚肉輸入量の推移

(単位：万トン)

国名	2024年	25年	前年比	
			(増減率)	輸入割合
米国	116.0	122.9	5.9%	80.1%
カナダ	18.3	22.4	23.0%	14.6%
ブラジル	4.2	7.5	76.9%	4.9%
その他	0.4	0.6	41.1%	0.4%
合計	138.9	153.4	10.4%	100.0%

資料：「Global Trade Atlas」、BOL（船荷証券）に基づく集計値

注1：HSコード0203。

注2：製品重量ベース。

(調査情報部)

E U

## 25年の豚総飼養頭数、前年をわずかに下回る

### 25年の豚総飼養頭数、前年比0.5%減

欧州委員会によると、2025年12月時点の豚総飼養頭数（EU27カ国）は1億3152万頭（前年比0.5%減）となった（表1）。内訳では、繁殖用豚が1039万頭（同0.5%増）、肥育豚（50キログラム以上）が5398万頭（同1.1%増）と、いずれも前年をわずかに上回った一方、育成豚（50キログラム未満）は6715万頭（同1.9%減）と前年を

わずかに下回り、総飼養頭数の減少に影響した。

主要豚肉生産国の動向を見ると、スペインでは慢性的な豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）の流行などにより、育成豚が1663万頭（同10.2%減）とかなりの程度減少した。オランダでは政府による廃業支援などを背景に、総飼養頭数が1979年以来初めて1000万頭を下回った。

表1 主要生産国別豚飼養頭数の推移

(単位：千頭)

国名	総飼養頭数			繁殖用豚			育成豚（50kg未満）			肥育豚（50kg以上）		
	2024年	25年	前年比 (増減率)	24年	25年	前年比 (増減率)	24年	25年	前年比 (増減率)	24年	25年	前年比 (増減率)
スペイン	34,565	33,646	▲2.7%	2,637	2,706	2.7%	18,531	16,633	▲10.2%	13,397	14,306	6.8%
ドイツ	21,292	21,489	0.9%	1,421	1,433	0.9%	10,055	10,865	8.1%	9,817	9,190	▲6.4%
デンマーク	11,583	12,274	6.0%	1,169	1,199	2.6%	7,905	8,292	4.9%	2,509	2,783	10.9%
フランス	11,715	11,644	▲0.6%	844	823	▲2.5%	5,990	5,951	▲0.7%	4,881	4,871	▲0.2%
オランダ	10,192	9,419	▲7.6%	806	748	▲7.2%	6,025	5,357	▲11.1%	3,361	3,315	▲1.4%
ポーランド	9,078	9,225	1.6%	610	628	2.9%	4,397	4,554	3.6%	4,072	4,044	▲0.7%
その他	33,710	33,823	0.3%	2,856	2,856	0.0%	15,516	15,497	▲0.1%	15,336	15,470	0.9%
合計	132,136	131,520	▲0.5%	10,341	10,393	0.5%	68,420	67,149	▲1.9%	53,373	53,978	1.1%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：2025年は速報値。

注2：各年12月時点。

## 25年12月の豚肉生産量、前年同月比6.8%増

欧州委員会によると、2025年12月の豚肉生産量（EU27カ国）は185万2000トン（前年同月比6.8%増）となり、前年同月をかなりの程度上回った（図1、表2）。1頭当たりの枝肉重量のわずかな増加（同0.5%増）に加え、豚と畜頭数が1954万頭（同6.3%増）と前年同月をかなりの程度上回ったことが生産量全体の増加につながった。25年累計（1～12月）の豚と畜頭数は、2億2818万6000頭（前年比2.7%増）と、新型コロナウイルス感染症やドイツにおける

アフリカ豚熱（ASF）の拡大により23年に2億1990万4000頭（同7.1%減）まで減少した後、2年連続で増加した。

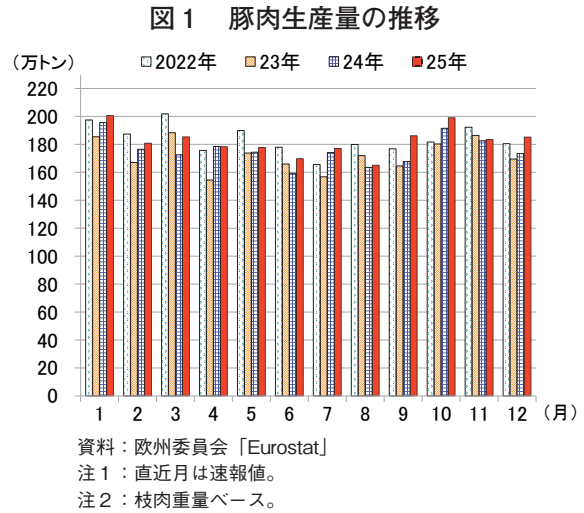


表2 主要生産国別豚肉生産量

(単位：万トン)

国名	2024年 12月	25年 12月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～12月)	
				前年同期比 (増減率)	
スペイン	40.7	44.5	9.4%	527.4	6.4%
ドイツ	33.8	35.2	4.1%	433.3	1.1%
フランス	17.5	18.4	5.2%	210.2	0.3%
ポーランド	16.5	17.9	8.4%	199.5	5.0%
デンマーク	9.3	10.9	16.3%	144.8	9.4%
オランダ	11.0	11.0	0.1%	140.8	1.6%
イタリア	10.6	10.7	0.8%	129.6	4.1%
その他	33.9	36.6	7.9%	403.0	3.3%
合計	173.4	185.2	6.8%	2,188.6	3.8%

資料：欧州委員会「Eurostat」  
注：枝肉重量ベース。

## 生産増加などを背景に、26年2月の豚枝肉卸売価格は低下

欧州委員会によると、2026年2月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、1キログラム当たり1.50ユーロ（277円：1ユーロ＝184.91円<sup>(注1)</sup>、前年同月比17.2%安）と、前年同月を大幅に下回った（図2）。

この背景として、スペインで野生イノシシのASFが引き続き確認されていること<sup>(注2)</sup>に伴う域内需給の緩和が挙げられる。加えて、24年までの堅調な価格を反映した豚肉の増産や、中国によるEU産豚肉に対するアンチダンピング関税の賦課<sup>(注3)</sup>なども影響している。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年3月末TTS相場。

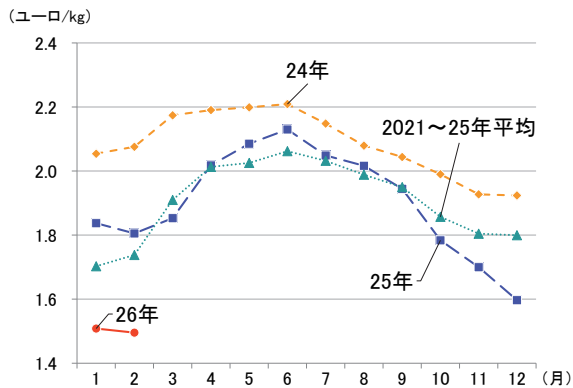
(注2) 海外情報「カタルーニャ州で野生イノシシのアフリカ豚熱感染確認が続く、豚肉価格は軟化傾向(EU)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\_004295.html)をご参照ください。

(注3) 海外情報「EU産豚肉に対し中国がアンチダンピング関税賦課を開始(EU、中国)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\_004272.html)をご参照ください。

## 25年の豚肉輸出量、前年比1.3%増

欧州委員会によると、2025年のEU域外向け豚肉輸出量(EU27カ国)は203万4488トン(前年比1.3%増)とわずかに増加した(表3)。主要豚肉輸出国であるスペインは、韓国(同55.4%増)や英国(同9.2%増)向けの輸出が増加したものの、ASFや中国のアンチダンピング関税の影響を受け、わずかな増加(同0.9%増)にとどまった。一方、デンマークでは、スペインからの切り替えが進んだことなどで、フィリピン(同41.3%増)向けのほか、台湾(同約3倍)やウクライナ(同約30倍)向けなどが増加し、かなり大きく増加(同11.8%増)した。

図2 豚枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」  
注：EU (CLASS E) 平均価格。

表3 EU域外向け豚肉輸出量 (2025年)

(単位：トン)

EU27カ国		スペイン		デンマーク		オランダ		フランス	
	前年比 (増減率)		前年比 (増減率)		前年比 (増減率)		前年比 (増減率)		前年比 (増減率)
中国	434,053 ▲10.6%	中国	221,918 ▲11.8%	英国	69,286 0.7%	中国	59,572 ▲16.8%	中国	41,021 ▲10.0%
英国	329,431 ▲4.0%	日本	156,531 ▲14.7%	中国	56,505 ▲0.5%	韓国	41,063 31.5%	英国	26,126 2.8%
日本	231,863 ▲21.7%	韓国	115,227 55.4%	臺灣	40,790 3.4%	英国	34,741 20.1%	フィリピン	18,105 ▲18.9%
韓国	225,473 16.2%	英国	47,285 9.2%	日本	38,706 ▲35.3%	フィリピン	29,284 ▲9.9%	日本	13,465 ▲11.7%
フィリピン	116,004 ▲8.1%	フィリピン	34,842 ▲21.9%	フィリピン	27,134 41.3%	臺灣	24,650 14.6%	台湾	9,353 53.5%
その他	697,665 24.1%	その他	166,547 20.3%	その他	119,679 68.6%	その他	82,021 6.7%	その他	27,171 24.5%
合計	2,034,488 1.3%	合計	742,351 0.9%	合計	352,099 11.8%	合計	271,332 3.3%	合計	135,241 ▲0.9%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコードは0203。

(調査情報部)

# 鶏肉

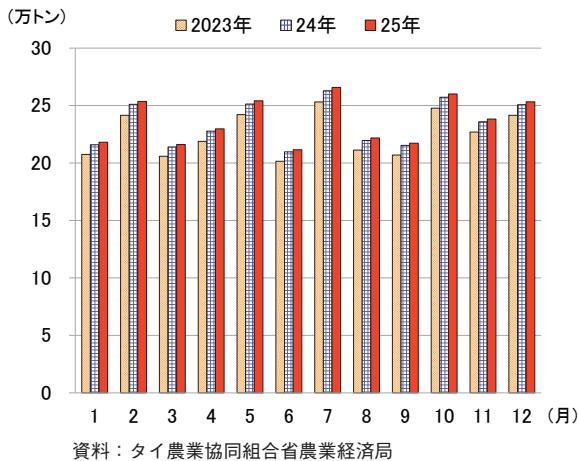
## タイ

### 26年3月の鶏肉卸売価格はかなりの程度上昇

#### 25年の鶏肉生産量、前年比1.0%増加

タイ農業協同組合省農業経済局によると、2025年の鶏肉生産量は283万9305トン（前年比1.0%増）とわずかに増加した（図1）。現地専門家によると、北米やニュージーランド（NZ）などで高原性鳥インフルエンザ（HPAI）が継続的に発生しているため原種鶏の輸入が停滞したことから、種鶏の供給不足が発生し、一部の養鶏企業で生産量に影響が生じている。このことから、今後の鶏肉生産動向には注視が必要であるとしている。

図1 鶏肉生産量の推移



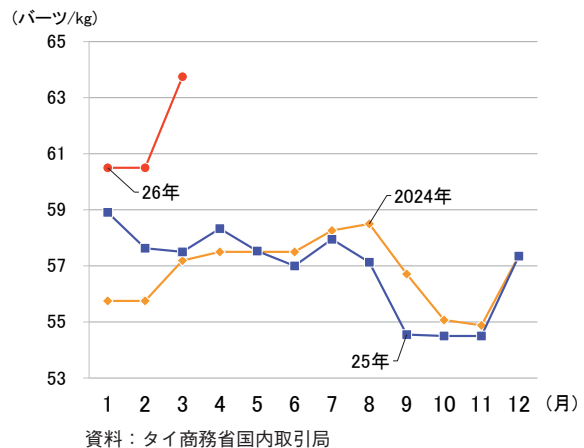
#### 26年3月の鶏肉卸売価格、前年同月比10.9%高

2026年3月の鶏肉卸売価格は、1キログラム当たり63.75バーツ（315円：1バーツ＝4.94円<sup>注</sup>、前年同月比10.9%高）とかなりの程度上昇した（図2）。この要因に

ついて現地専門家は、1）北米など原種鶏の輸入国における継続的な疾病の発生、2）一部の養鶏企業の<sup>ふ</sup>孵卵場における火災の発生、3）国内で年明けからの寒波で原種鶏や種鶏の産卵率が低下したことによる供給量の減少<sup>一</sup>があるとしている。また、2月下旬からの中東情勢の悪化による燃料費の高騰や海上輸送の遅延も要因として挙げている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年3月末TTS相場。

図2 鶏肉卸売価格の推移



#### 25年の冷凍鶏肉の輸出量、前年比7.8%増

2025年の冷凍鶏肉の輸出量は、49万6853トン（前年比7.8%増）とかなりの程度増加した（表1）。このうち日本向けは、年間を通して節約志向・健康志向などを背景とした鶏肉の引き合いが強かったため、18万2610トン（同2.3%増）とわずかに増加した。

表1 輸出先別冷凍鶏肉輸出量の推移

(単位：万トン)

国名	2023年	24年	25年	前年比 (増減率)
日本	16.6	17.9	18.3	2.3%
マレーシア	9.1	9.1	11.4	0.6%
中国	11.5	11.3	9.2	1.0%
韓国	3.2	2.2	3.5	58.3%
アラブ首長国連邦	0.02	0.98	2.5	157.6%
その他	6.8	4.6	4.8	5.0%
合計	47.2	46.1	49.7	7.8%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは020714。

### 25年の鶏肉調製品の輸出量、前年比3.3%増

2025年の鶏肉調製品輸出量は、69万9908トン（前年比3.3%増）とやや増加した（表2）。主要輸出先別に見ると、日本向けは堅調な外食需要や消費者による牛肉の代替需要などを背景に堅調に推移し、31万

1286トン（同3.5%増）とやや増加した。韓国向けはかなりの程度減少したが、英国向けはわずかに、オランダ向けはやや増加した。現地関係者は、欧州向け輸出は好調であるものの、中国産製品との競合が激化しているため、今後の輸出動向については注視が必要としている。

表2 輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

(単位：万トン)

国名	2023年	24年	25年	前年比 (増減率)
日本	28.6	30.1	31.1	3.5%
英国	16.1	19.9	20.2	1.6%
オランダ	4.1	4.5	4.8	5.9%
韓国	2.9	2.9	2.7	▲9.4%
その他	8.0	10.3	11.2	8.8%
合計	59.6	67.7	70.0	3.3%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは160232。

(調査情報部)

# 牛乳・乳製品

米 国

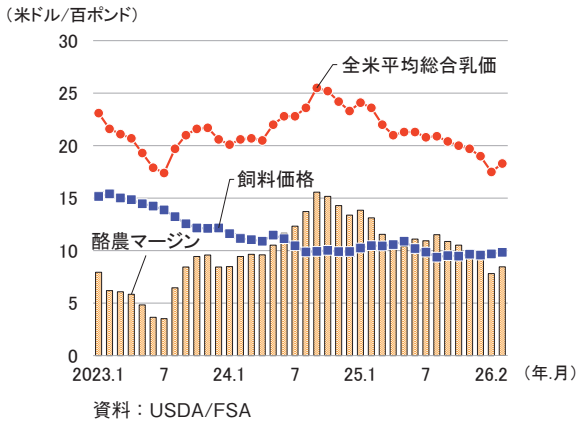
## 26年2月の乳価は前年同月を大幅に下回る

26年2月の全米平均総合乳価、前年同月比22.5%安

米国農務省農場サービス局（USDA/FSA）によると、2026年2月の全米平均総合乳価は、生乳100ポンド当たり18.3米ドル（1キログラム当たり65円：1米ドル＝160.88円<sup>（注1）</sup>、前年同月比22.5%安）と前年同月を大幅に下回った（図1）。同月の酪農マージン<sup>（注2）</sup>は、飼料価格が横ばいで推移する中、乳価の下落に伴い同8.46米ドル（同30円、同35.5%減）と大幅に減少した。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2026年3月末TTS相場。  
（注2）酪農家のセーフティーネット制度である酪農マージン保障プログラム（DMC）で算定される、全米平均総合乳価と飼料費の差額としての収益。DMCでは、酪農マージンが発動基準を下回った場合に補填が発動する。

図1 酪農マージンの推移



26年2月の生乳生産量は前年同月比2.9%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2026年2月の乳用経産牛飼養頭数は961万5000頭（前年同月比2.2%増）とわずかに増加した（図2）。アイダホ州、テキサス州、カンザス州、サウスダコタ州、ニューヨーク州などで乳製品の加工能力の向上が見られることや、乳価が下落傾向にある中でも肉用種との交雑子牛（ビーフ・オン・デイリー）の販売による収益が得られることにより、頭数が増加しているとみられる。

同月の生乳生産量は、乳用経産牛飼養頭数および1頭当たり乳量（同0.6%増）の増加により、828万トン（同2.9%増）とわずかに増加した（図3）。米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、26年の生乳生産量は1億645万8000トン（前年比1.3%増）と見込まれている。

図2 乳用経産牛飼養頭数の推移

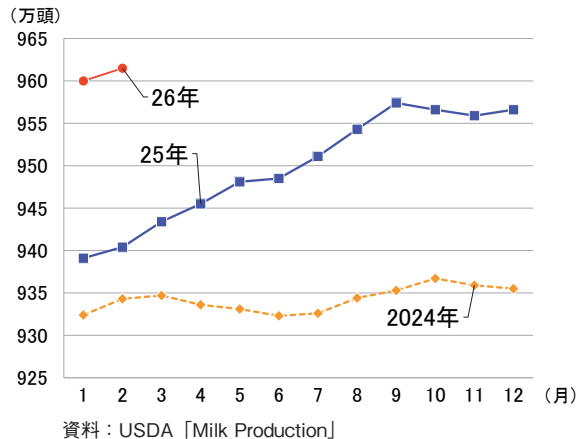
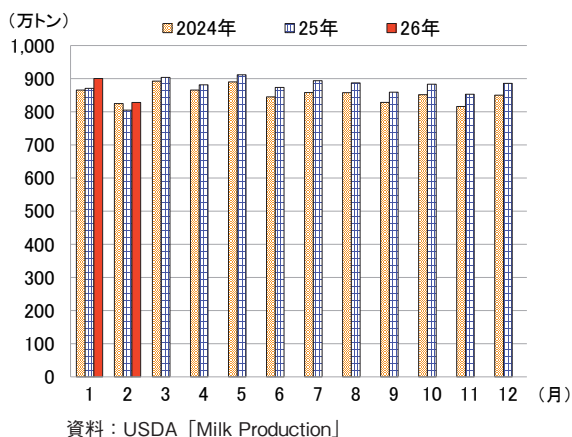


図3 生乳生産量の推移



### 25年12月の乳製品輸出量は多くの品目で前年同月を上回る

USDA/ERSによると、2025年12月の乳製品輸出量は、乳脂肪分ベースでは前年同月

比63.8%増と大幅に、無脂乳固形分ベースでも同5.9%増とやや、それぞれ増加した。

品目別に見ると、チーズやバターなどの製品において、前年同月を上回った（表）。チーズは、メキシコや韓国といった主要輸出先における旺盛な需要から、5万4133トン（前年同月比24.0%増）と大幅に増加した。バターは、生乳生産量や生乳に含まれる乳脂肪分の増加から供給量が増加しており、欧州産やニュージーランド産に対する価格優位性から1万541トン（同約3.6倍）と大幅に増加した。一方、ホエイたんぱく濃縮物（WPC）は、国内におけるたんぱく質需要の増加に伴い、8411トン（同33.3%減）と大幅に減少した。

表 主要乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2024年 12月	25年 12月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～12月)	
				前年同期比 (増減率)	
脱脂粉乳	49,938	58,918	18.0%	674,914	▲9.3%
チーズ	43,651	54,133	24.0%	613,046	20.1%
乳糖	34,957	31,269	▲10.6%	402,140	▲1.3%
ホエイ	13,118	17,417	32.8%	199,374	9.4%
バター	2,920	10,541	261.0%	83,524	162.0%
WPC	12,602	8,411	▲33.3%	119,243	▲22.8%

資料：USDA [Dairy Data]

注：製品重量ベース。

（調査情報部）

## 25年の乳用経産牛飼養頭数は0.7%減、生乳出荷量は1.3%増

### 25年の乳用経産牛飼養頭数は前年比0.7%減と10年連続で減少

欧州委員会によると、2025年12月時点の乳用経産牛飼養頭数（EU27カ国）は、1908万5000頭となり、前年比0.7%減と10年連続で減少した（表1）。EU域内外に

おける記録的な牛肉価格の高騰を背景としたと畜頭数の増加などが飼養頭数減少の一因とみられる。一方、同年の1頭当たり乳量は7724キログラム（前年比2.1%増）と前年に比べわずかに増加した。これに伴い、EU全体の生乳出荷量も1億4742万（同1.3%増）と前年をわずかに上回った。

表1 主要生産国別乳用経産牛飼養頭数の推移

（単位：千頭）

国名	2023年	24年	25年	前年比 (増減率)
ドイツ	3,713	3,589	3,597	0.2%
フランス	3,165	3,075	2,984	▲3.0%
ポーランド	2,243	1,960	1,946	▲0.7%
イタリア	1,808	1,764	1,771	0.4%
オランダ	1,552	1,527	1,518	▲0.6%
アイルランド	1,511	1,481	1,490	0.6%
その他	5,920	5,824	5,779	▲0.8%
合計	19,912	19,222	19,085	▲0.7%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：2025年は速報値。

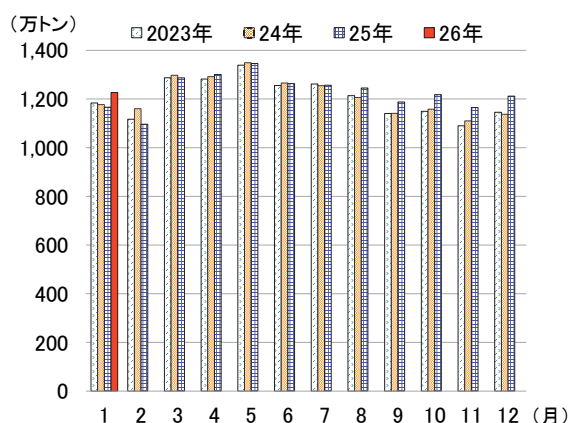
注2：各年12月時点。

### 26年1月の生乳出荷量は前年同月比5.2%増

欧州委員会によると、2026年1月の生乳出荷量（EU27カ国）は前年同月比5.2%増の1226万トンと、前年同月をやや上回った（図1、表2）。すべての主要生産国で前年同月を上回り、比較的安い飼料価格や25年を通じて高水準で推移した乳価などを背景に増産基調が継続している。

同委員会によれば、同月の乳脂肪分は4.31%、無脂乳固形分は3.54%となり、それぞれ前年同月を0.05ポイント、0.03ポイント上回った。

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

表2 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：万トン)

国名	2025年 1月	26年 1月	前年同月比 (増減率)
ドイツ	266	285	7.0%
フランス	202	214	5.8%
オランダ	116	122	5.9%
ポーランド	115	119	3.4%
イタリア	109	117	7.6%
その他	359	370	3.1%
合計	1,166	1,226	5.2%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

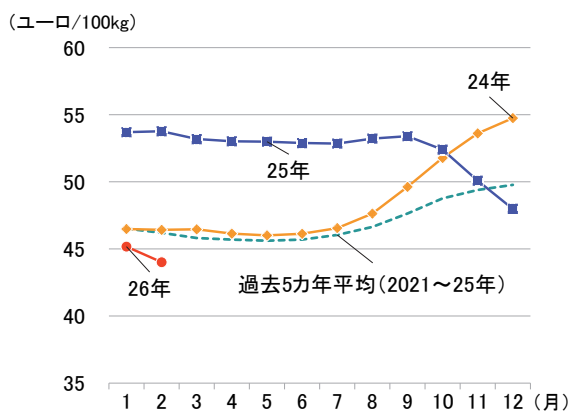
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

## 26年2月の生乳取引価格、前月割れが継続

欧州委員会によると、2026年2月の生乳取引価格（EU27カ国平均）は、100キログラム当たり44.01ユーロ（1キログラム当たり81円：1ユーロ＝184.91円<sup>注</sup>、前年同月比18.2%安）となった（図2）。25年9月まで堅調に推移したものの、生乳出荷量の増加が価格の下落圧力となり、5カ月連続で下落した。英国農業園芸開発委員会(AHDB)によると、生乳価格の下落に加え、環境規制の強化などによる規制コストの上昇も重なり、

図2 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は推定値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

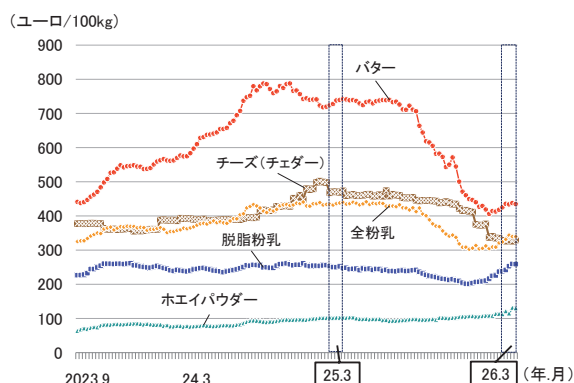
生産者の経営利益は圧迫されている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年3月末TTS相場。

## 主要乳製品価格、前年同期を下回る

欧州委員会によると、2026年3月29日の週の乳製品価格（EU27カ国平均）は、バターが100キログラム当たり435ユーロ（1キログラム当たり804円、前年同期比41.4%安）、全粉乳が同340ユーロ（同629円、同22.7%安）、チーズが同330ユーロ（同610円、同30.3%安）と、いずれも前年同期を下回った（図3）。一方、脱脂粉乳は同259ユーロ（同479円、同4.7%高）、ホエイパウダーは同131ユーロ（同242円、同

図3 乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

26.9%高) と、前年同期を上回った。

欧州の主要乳製品価格は、世界的な生乳生産の増加を背景に、25年9月以降、バターや全粉乳を中心に大幅な下落が進んだものの、26年3月の価格を見ると、イースター需要などの季節要因もあり、前月比ではい

れも上昇した。AHDBによると、中東における混乱を背景に、乳製品の備蓄需要や、保存性の高い粉乳などの需要が増加する可能性があるという。

(調査情報部)

## N Z

# 25/26年度の生産者支払乳価を2カ月連続で引き上げ

## 26年2月の生乳生産量、前年同月比6.0%増

ニュージーランド乳業協会 (DCANZ) によると、2026年2月の生乳生産量は197万7000トン (前年同月比6.0%増) と、10カ月連続で増加した (図1)。また、2025/26年度 (6月~翌5月) の2月までの生乳生産量も、1788万2000トン (前年比2.7%増) と前年度を上回って推移している。

2月の生乳生産量の増加要因についてニュージーランド証券取引所 (NZX) は、

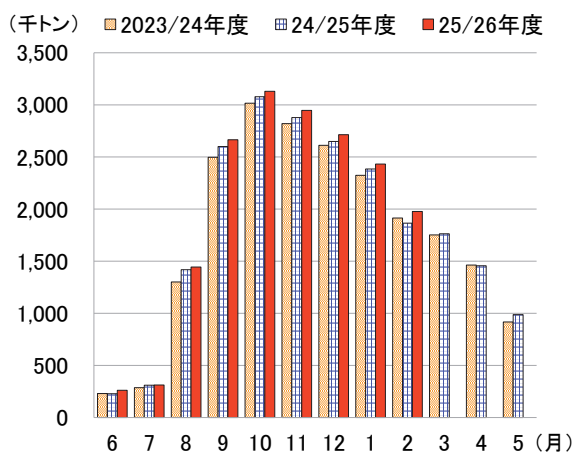
25年は北島、南島のいずれも干ばつに見舞われたが、26年は好天に恵まれ牧草の生育環境が良好であったことが寄与したとしている。

今後の生乳生産の見通しについてNZXは、牧草の成長が鈍化する時期に入るものの、酪農家には補助飼料の備蓄があることから、良好な生産環境が持続すると予想している。一方で、中東情勢の長期化により肥料や輸入飼料価格が上昇すれば、経営環境が一変するのではないかと懸念している。

## 26年2月の乳製品輸出量、脱脂粉乳、チーズで減少

ニュージーランド統計局 (Stats NZ) によると、2026年2月の乳製品輸出量は、主要4品目のうち脱脂粉乳、チーズが前年同月を下回った一方、全粉乳、バターおよびバターオイルは前年同月を上回った (表、図2)。品目別に見ると、脱脂粉乳は中国、マレーシア向け、チーズはインドネシア向けがいずれも減少した一方、全粉乳は中国、アラブ首長国連邦向け、バターおよびバターオイルは中国、英国向けがいずれも増加した。2025/26年度累計 (25年6月~翌2月) では、脱脂粉乳を除く主要3品目が前年同期を上回った。

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ「New Zealand Monthly Milk Production Report」

注：年度は6月~翌5月。

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

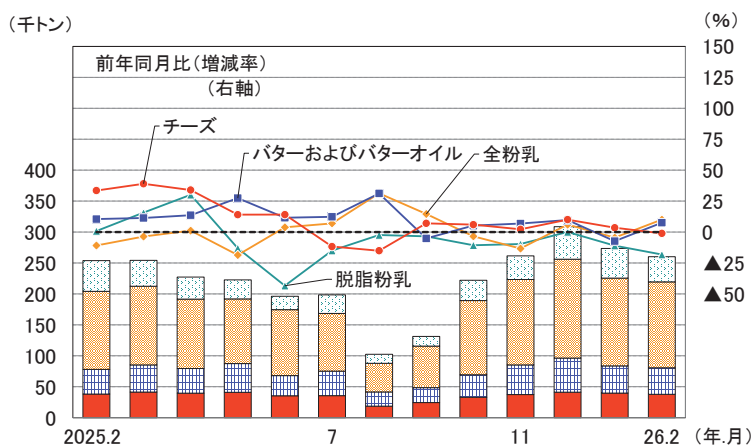
品目	2025年 2月	26年 2月	前年同月比 (増減率)	25/26年度	前年同期比
				(6月～翌2月)	(増減率)
脱脂粉乳	49,666	40,627	▲18.2%	272,167	▲9.7%
全粉乳	126,191	138,875	10.1%	905,071	1.7%
バターおよびバターオイル	39,803	42,801	7.5%	313,052	6.0%
チーズ	38,180	37,763	▲1.1%	267,367	0.3%

資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」

注：製品重量ベース。

## 26年3月17日のGDT平均取引価格、全粉乳を除き前回を上回る

2026年3月17日開催のGDT<sup>(注1)</sup> 平均取引価格は、全粉乳を除く主要3品目が前回開催時（26年3月3日）を上回った（図3）。取引全体では、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり4330米ドル（69万6610円、1米ドル＝160.88円<sup>(注2)</sup>、前回比0.7%高）とわずかに上昇した。

NZXによると、ホルムズ海峡周辺での混乱の継続や原油価格の上昇を背景に、物流や輸送手段の確保に対する懸念から、備蓄としての駆け込み需要があったとみられている。

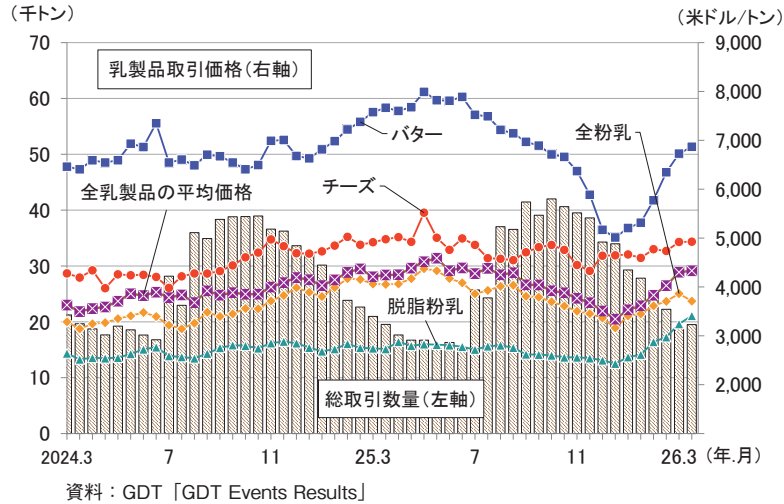
特に脱脂粉乳については、中国からの需要が低下している中で、東南アジアや中東からの需要に支えられ、前回開催時の価格を上回ったとみている。

このような中、NZ乳業最大手のフォンテラ社は26年3月23日、2025/26年度の生産者支払乳価について、生乳の固形分<sup>(注3)</sup> 1キログラム当たり平均0.20NZドル（19円：1NZドル＝93.52円<sup>(注2)</sup>）引き上げ、同9.70NZドル（907円）にすると発表した。また、同乳価の予測範囲を同9.20～9.80NZドル（860～916円）から9.40～10.00NZドル（879～935円）に上方修正すると発表した。この理由について同社のハレル最高

経営責任者は、フォンテラ社の堅調な販売契約実績と同社製品に対する需要の高まりを踏まえたものと説明している。

(注1) グローバルデイレートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。  
 (注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年3月末TTS相場。  
 (注3) 乳脂肪分および乳たんぱく質。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



(調査情報部)

## 中国

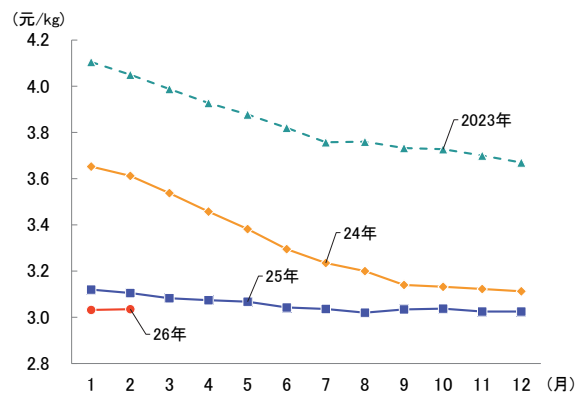
### 生乳価格は3.0元台と低水準、チーズとバターの輸入量は大幅増加

#### 26年2月の生乳価格、前年同月比2.3%安

中国農業農村部によると、2026年2月の生乳価格は1キログラム当たり3.04元(71.2円：1元=23.41円<sup>(注)</sup>、前年同月比2.3%安)と前年同月をわずかに下回った(図)。一方、25年6月以降、生乳価格は3.02~3.04元(70.7円~71.2円)の間で推移しており、26年2月は前月比0.1%高と前月並みで安定している。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年3月末TTS相場。

図 生乳価格の推移



この要因として同部は、26年3月に公表した「農産物需給動向分析月報(2026年2月)」(以下「報告」という)の中で、1)生産性の低い乳用牛の淘汰で生乳生産量の

最適化が進んだこと、2) 春節（旧正月。26年は2月17日）期間中に牛乳・乳製品の消費が増加したことを挙げている。

## 26年1～2月の乳製品輸入量、チーズとバターが大幅増加

2026年1～2月の主要乳製品9品目の輸入量は、ヨーグルト、チーズ、バターおよび育児用調製粉乳の4品目で増加した（表）。特に、チーズ（前年同期比30.8%増）とバター（同55.8%増）は大幅に増加しており、ベーカリーや茶、コーヒーなどのドリンクショップの拡大による需要の増加が続いていること

がうかがえる。一方、全粉乳（同26.0%減）、脱脂粉乳（同37.5%減）および飲用乳（同30.4%減）は大幅に減少している。この要因について現地関係者は、1) 牛群縮小による生乳生産量の減少を1頭当たり乳量の増加が相殺し、生乳生産量が安定している中、生乳価格が低水準で推移したことで全粉乳や飲用乳の輸入需要が低下したこと、2) 生乳価格の低下を受け、中国国内でのバター製造が増加し、脱脂乳の生産量も増加したことで脱脂粉乳の輸入需要が低下したことを挙げている。

表 主な乳製品の品目別輸入量の推移

（単位：万トン）

品目	2024年	25年	26年 (1～2月)	前年同期比 (増減率)	【参考：輸入額】
					前年同期比 (増減率)
全粉乳	41.0	38.4	7.7	▲26.0%	▲29.1%
脱脂粉乳	22.9	21.0	3.2	▲37.5%	▲39.7%
飲用乳	41.7	40.5	6.6	▲30.4%	▲28.8%
ミルクおよびクリーム	28.8	26.4	4.4	▲0.9%	▲0.2%
ヨーグルト	1.6	1.5	0.2	10.3%	9.5%
チーズ	17.3	19.7	3.9	30.8%	27.7%
バター	10.5	11.3	3.9	55.8%	0.1%
育児用調製粉乳	21.6	22.2	3.1	4.5%	7.4%
ホエイ	64.5	70.9	10.6	▲6.3%	11.7%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と401.20、ミルクおよびクリームが0401.50（脂肪分が全重量の10%以上）、ヨーグルトは0403.20、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調製粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。

今後の中国の乳製品需要について、豪州農業資源経済科学局（ABARES）は、26年3月に公表した「Agricultural Commodities Report」の中で、中国国内の生乳生産量が安定している中、乳製品の1人当たり消費量

が増加していることから、緩やかに増加すると予測している。

（調査情報部）

# 飼料穀物

## 世界

### 25/26年度は生産量および輸入量の上方修正から期末在庫は上方修正

米国農務省世界農業観測ボード (USDA/WAOB) および米国農務省海外農業局 (USDA/FAS) は2026年3月10日、2025/26年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した(表)。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億9744万トン(前年度比5.4%増)と前月から153万トン上方修正された。主要生産国ではアルゼンチンが下方修正されたが、ブラジルとウクライナの上方修正が影響した。

輸入量は、世界全体で1億9272万トン(同3.5%増)と前月から64万トン上方修正された。主要生産国ではいずれも前月から据え置かれたが、ベトナムやフィリピンの増加など

が反映された。

消費量は、世界全体で13億51万トン(同4.0%増)と前月から78万トン下方修正されたが、引き続き高水準を維持している。主要生産国ではウクライナが上方修正されたものの、ブラジルの下方修正が影響した。

輸出量は、世界全体で2億685万トン(同10.4%増)と前月から30万トン上方修正された。主要生産国ではいずれも前月から据え置かれたが、インドの増加などが反映された。

この結果、期末在庫は、生産量および輸入量の上方修正から、2億9275万トン(同1.0%減)と前月から377万トン上方修正された。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2026年3月10日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

国名	2023/24 年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度			
			(2月予測)	(3月予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	34.55	44.79	39.40	39.40	▲12.0%
	生産量	389.67	378.27	432.34	432.34	14.3%
	輸入量	0.72	0.55	0.64	0.64	16.4%
	消費量	322.87	311.60	334.53	334.53	7.4%
	輸出量	57.28	72.60	83.82	83.82	15.5%
	期末在庫	44.79	39.40	54.02	54.02	37.1%
	ブラジル	期首在庫	9.88	8.33	10.58	11.36
生産量		119.00	136.00	131.00	132.00	▲2.9%
輸入量		1.72	1.76	1.60	1.60	▲9.1%
消費量		84.00	92.50	96.50	96.00	3.8%
輸出量		38.26	42.24	43.00	43.00	1.8%
期末在庫		8.33	11.36	3.68	5.96	▲47.5%
アルゼンチン		期首在庫	2.32	2.48	6.58	6.78
	生産量	51.60	50.00	53.00	52.00	4.0%
	輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%
	消費量	15.20	16.70	16.70	16.70	0.0%
	輸出量	36.26	29.00	37.00	37.00	27.6%
	期末在庫	2.48	6.78	5.89	5.09	▲24.9%
	ウクライナ	期首在庫	3.00	0.54	0.84	0.84
生産量		32.50	26.80	29.00	30.70	14.6%
輸入量		0.01	0.02	0.01	0.01	▲50.0%
消費量		5.48	6.50	6.20	6.60	1.5%
輸出量		29.49	20.02	22.00	22.00	9.9%
期末在庫		0.54	0.84	1.65	2.95	251.2%
EU		期首在庫	8.02	7.29	6.21	6.21
	生産量	61.95	59.02	56.95	56.95	▲3.5%
	輸入量	19.81	18.76	19.50	19.50	3.9%
	消費量	78.10	76.10	75.00	75.00	▲1.4%
	輸出量	4.39	2.76	1.80	1.80	▲34.8%
	期末在庫	7.29	6.21	5.86	5.86	▲5.6%
	中国	期首在庫	206.02	211.19	191.93	191.93
生産量		288.84	294.92	301.24	301.24	2.1%
輸入量		23.33	1.82	8.00	8.00	339.6%
消費量		307.00	316.00	321.00	321.00	1.6%
輸出量		0.00	0.00	0.02	0.02	—
期末在庫		211.19	191.93	180.15	180.15	▲6.1%
世界計		期首在庫	305.36	315.25	294.35	295.82
	生産量	1231.13	1230.59	1295.91	1297.44	5.4%
	輸入量	197.60	186.13	192.08	192.72	3.5%
	消費量	1221.24	1250.02	1301.29	1300.51	4.0%
	輸出量	192.65	187.38	206.55	206.85	10.4%
	期末在庫	315.25	295.82	288.98	292.75	▲1.0%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部)

## 大豆生産量の下方修正などから期末在庫も下方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2026年3月10日、2025/26年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2718万トン（前年度比0.0%減）と前月から100万トン下方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジル、これに次ぐ米国は、いずれも前月から据え置かれたが、アルゼンチンが単収の減少を受けて4800万トン（同6.1%減）と前月から50万トン下方修正された他、ウクライナの下方修正が影響した。

輸入量は、世界全体で1億8561万トン（同3.6%増）と前月から38万トン下方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は1億1200万トン（同3.7%増）と前月から据え置かれたが、インドやイランの減少などが反映された。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億6796万トン（同2.5%増）と前月から7万トン下方修正された。このうち、最大の消費国である中国は1億800万トン（同4.3%増）と前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8717万トン（同1.6%増）と前月から40万トン下方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジル、これに次ぐ米国は、いずれも前月から据え置かれたが、ウクライナの減少が反映された。

期末在庫は、生産量の下方修正などを反映して1億2531万トン（同1.2%増）と前月から20万トン下方修正された。

今回の予測値に関して中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した25/26年度の中国の大豆輸入量9580万トンとUSDAの予測値には、引き続き1620万トンの乖離<sup>かいり</sup>がある。国際相場にも影響を与える同国の輸入動向が注目される。

表 主要国の大豆需給見通し（2026年3月10日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2023/24年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度		
			(2月予測)	(3月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	7.19	9.32	8.84	8.84	▲5.2%
生産量	113.27	119.05	115.99	115.99	▲2.6%
輸入量	0.57	0.79	0.54	0.68	▲13.9%
消費量	62.20	66.55	69.94	70.08	5.3%
輸出量	46.27	51.23	42.86	42.86	▲16.3%
期末在庫	9.32	8.84	9.52	9.52	7.7%
ブラジル					
期首在庫	36.80	29.72	36.81	36.81	23.9%
生産量	154.50	171.50	180.00	180.00	5.0%
輸入量	0.87	0.73	0.50	0.50	▲31.5%
消費量	54.41	58.00	61.00	61.00	5.2%
輸出量	104.19	103.14	114.00	114.00	10.5%
期末在庫	29.72	36.81	37.91	37.91	3.0%
アルゼンチン					
期首在庫	17.00	24.05	23.37	23.57	▲2.0%
生産量	48.21	51.11	48.50	48.00	▲6.1%
輸入量	7.79	6.32	7.50	7.50	18.7%
消費量	36.58	43.24	41.00	41.00	▲5.2%
輸出量	5.11	7.87	8.25	8.25	4.8%
期末在庫	24.05	23.57	22.92	22.92	▲2.8%
中国					
期首在庫	32.34	43.31	44.49	44.49	2.7%
生産量	20.84	20.65	20.90	20.90	1.2%
輸入量	112.00	108.00	112.00	112.00	3.7%
消費量	99.00	103.50	108.00	108.00	4.3%
輸出量	0.07	0.07	0.10	0.10	42.9%
期末在庫	43.31	44.49	44.39	44.39	▲0.2%
世界計					
期首在庫	101.78	115.08	123.66	123.84	7.6%
生産量	396.40	427.19	428.18	427.18	▲0.0%
輸入量	178.42	179.20	185.99	185.61	3.6%
消費量	331.16	359.04	368.03	367.96	2.5%
輸出量	177.84	184.22	187.57	187.17	1.6%
期末在庫	115.08	123.84	125.51	125.31	1.2%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

(調査情報部)

## 米 国

# 米国は生産量の増加などから期末在庫は大幅に増加

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2026年3月10日、2025/26年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。この中で、すべての数値は前月から据え置かれた。

米国内生産量は、170億2100万ブッシェル（4億3235万トン<sup>（注1）</sup>、前年度比14.3%増）と前年度をかなり大きく上回ると見込まれている。

米国内消費量は、131億7000万ブッシェル（3億3453万トン、同7.4%増）と前年度をかなりの程度上回ると見込まれている。

輸出量は、33億ブッシェル（8382万トン、同15.5%増）と前年度をかなり大きく上回ると見込まれている。

この結果、期末在庫は、21億2700万ブッシェル（5403万トン、同37.1%増）と前年度を大幅に上回ると見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、12.9%（同2.6ポイント増）と、前年度を上回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.10米ドル（660円。1キログラム当たり26円：1米ドル＝160.88円<sup>（注2）</sup>、同3.3%安）と前年度からやや下落すると見込まれている。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年3月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2026年3月10日米国農務省公表）

区分	－単位－	2023/24年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度			
				(2月予測)	(3月予測)	参考（換算値）	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	94.6	90.9	98.8	98.8	39.98 (百万ヘクタール)	8.7%
収穫面積	(百万エーカー)	86.5	83.0	91.3	91.3	36.95 (百万ヘクタール)	10.0%
単収	(ブッシェル/エーカー)	177.3	179.3	186.5	186.5	11.71 (トン/ヘクタール)	4.0%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,360	1,763	1,551	1,551	39.40 (百万トン)	▲12.0%
生産量	(百万ブッシェル)	15,341	14,892	17,021	17,021	432.35 (百万トン)	14.3%
輸入量	(百万ブッシェル)	28	22	25	25	0.64 (百万トン)	13.6%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,729	16,677	18,597	18,597	472.38 (百万トン)	11.5%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,711	12,267	13,170	13,170	334.53 (百万トン)	7.4%
飼料等向け	(百万ブッシェル)	5,831	5,454	6,200	6,200	157.49 (百万トン)	13.7%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,880	6,813	6,970	6,970	177.04 (百万トン)	2.3%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,489	5,436	5,600	5,600	142.25 (百万トン)	3.0%
輸出量	(百万ブッシェル)	2,255	2,858	3,300	3,300	83.82 (百万トン)	15.5%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,966	15,126	16,470	16,470	418.35 (百万トン)	8.9%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,763	1,551	2,127	2,127	54.03 (百万トン)	37.1%
期末在庫率	(%)	11.8	10.3	12.9	12.9		2.6ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	4.55	4.24	4.10	4.10	26.0 (円/kg)	▲3.3%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で「表 主要国のトウモロコシの需給見通し」の米国の値と一致しない場合がある。

(調査情報部)

## 25/26年度の大豆生産量は過去最大の見込み

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）は2026年3月13日、2025/26年度（25年9月～26年8月までに播種されるもの）第6回目となる主要穀物の生産状況等調査結果を公表した。この調査は、春植えの夏期作物（大豆、第1期作トウモロコシなど）や秋植えの冬期作物（第2期作・第3期作トウモロコシ、小麦、大麦、ライ麦など）の生産予測を毎月公表するものである。

### 25/26年度のトウモロコシ生産量はさらに下方修正、前年度比2.0%減の見込み

2025/26年度のトウモロコシ生産量は、前回（26年2月）より17万8000トン下方修正され、1億3827万トン（前年度比2.0%減）と見込まれている（表1、図1、2）。第4回調査結果以降、毎回下方修正されているが、依然として過去最大となった24/25年度に次ぐ生産量が予測されている。

表1 2025/26年度の主要穀物等の生産予測

項目	作付面積 (万ha)				単収 (トン/ha)				生産量 (万トン)			
	2024/25年度	25/26年度			24/25年度	25/26年度			24/25年度	25/26年度		
		(2月予測)	(3月予測)	前年度比増減率		(2月予測)	(3月予測)	前年度比増減率		(2月予測)	(3月予測)	前年度比増減率
穀物合計	8,173.5	8,325.8	8,315.5	1.7%	4.3	4.2	4.3	▲1.4%	35,225.9	35,337.6	35,344.6	0.3%
トウモロコシ	2,183.8	2,252.6	2,240.8	2.6%	6.5	6.1	6.2	▲4.5%	14,115.8	13,844.8	13,827.0	▲2.0%
第1期作	377.3	404.4	405.9	7.6%	6.6	6.6	6.7	1.9%	2,493.6	2,670.0	2,735.0	9.7%
第2期作	1,743.0	1,789.4	1,776.2	1.9%	6.5	6.1	6.1	▲6.0%	11,322.8	10,926.3	10,843.5	▲4.2%
第3期作	63.5	58.8	58.8	▲7.4%	4.7	4.2	4.2	▲10.3%	299.4	248.5	248.5	▲17.0%
大豆	4,734.6	4,843.4	4,843.5	2.3%	3.6	3.7	3.7	1.4%	17,148.1	17,798.5	17,784.7	3.7%

資料：CONAB

注1：2026年3月13日公表データ。

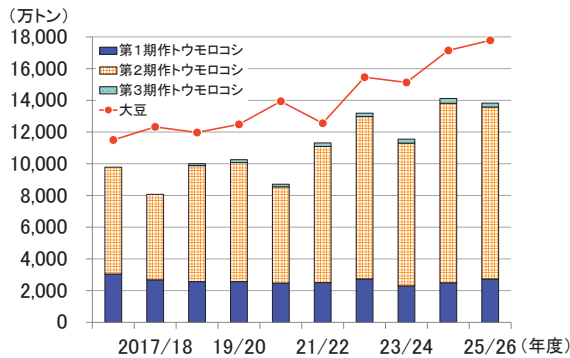
注2：第1期作トウモロコシは、例年、9月ごろから南部より順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

注3：第2期作トウモロコシは、主に中西部と南部パラナ州で1～3月にかけて播種が行われ、6～9月に収穫される。

注4：第3期作トウモロコシは、主に北部と北東部で5～6月にかけて播種が行われ、10～11月ごろに収穫される。

注5：大豆は、10月ごろから順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

図1 トウモロコシと大豆の生産量の推移

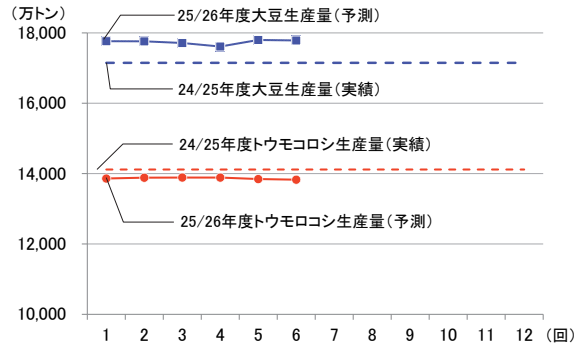


資料：CONAB

注1：2025/26年度は予測値。

注2：26年3月13日公表データ。

図2 2025/26年度の生産予測の推移



資料：CONAB

注：生産予測の第1回は2025年10月公表、以降毎月更新。

内訳を見ると、全生産量の2割を占める第1期作の生産量は、前回から65万トン上方修正され、2735万トン（同9.7%増）と、前年度をかなりの程度上回ると見込まれている。第1期作の作付けは2月で全て完了した。収穫作業は主要な生産地である南部を中心に進んでおり、3月上旬時点で第1期作の作付面積全体の29.5%で収穫を終えているが、おおむね天候にも恵まれ、生育は良好である。

また、全生産量の8割を占める第2期作の生産量は、前回から82万8000トン下方修正され、1億843万5000トン（同4.2%減）と、前年度をやや下回ると見込まれている。第2期作の作付けは、3月上旬時点で第2期作の作付面積全体の75.9%に達しており、

進捗率は前年（83.1%）を7.2ポイント下回るものの、平年（71.5%）を4.4ポイント上回っている。大部分の生産地域において初期生育は良好であるが、最大の生産州であるマットグロッソ州に次ぐパラナ州やマットグロッソ・ド・スル州では十分な降雨量が得られず、生産者の間で懸念が広がっている。

トウモロコシ需給を見ると、25/26年度の生産量が下方修正されたことで、期末在庫は16万6000トン下方修正の1159万5000トン（同8.6%減）と、前年度をかなりの程度下回る見込みとなった（表2）。生産量は過去最大であった前年度には及ばないと見込まれているものの、国内のエタノール向け需要や輸出需要は依然として堅調である。

表2 ブラジルのトウモロコシ需給動向

（単位：万トン）

項目	2022/23年度	23/24年度	24/25年度	25/26年度	増減率 (%)
期首在庫	809.6	720.1	188.2	1,268.9	574.2
生産量	13,189.3	11,553.5	14,115.8	13,827.0	▲2.0
輸入量	131.3	164.5	184.6	170.0	▲7.9
総供給量	14,130.2	12,438.1	14,488.5	15,265.9	5.4
消費量	7,946.6	8,399.8	9,056.5	9,456.5	4.4
輸出量	5,463.4	3,850.1	4,163.2	4,650.0	11.7
総需要量	13,410.0	12,249.9	13,219.6	14,106.5	6.7
期末在庫	720.1	188.2	1,268.9	1,159.5	▲8.6

資料：CONAB

注：2026年3月13日公表データ。

## 25/26年度の大豆生産量は下方修正ながら、前年度比3.7%増と過去最大の見込み

2025/26年度の大豆生産量は、前回より13万8000トン下方修正されたものの、1億7784万7000トン（前年度比3.7%増）と前年度をやや上回り、過去最大となる見込みである（表1、図1、2）。下方修正の要因は、

主要な生産州の一つであるリオグランデ・ド・スル州で、2月に降水量が不足したことに加え、高温の被害が発生し、作柄に影響が出たことによる。収穫は3月上旬時点で作付面積全体の50.6%で完了し、平年（48.5%）を2.1ポイント上回る進捗率となっている。最も進捗率が高いのは最大の生産州であるマットグロッソ州で、89.2%となっている。

大豆需給を見ると、25/26年度の大豆生産量

が下方修正された一方で、輸出量は219万1000トン上方修正された。それに伴い、期末在庫は232万8000トン下方修正の953万

8000トン（同6.4%減）と、前年度をかなりの程度下回る見込みとなった（表3）。

表3 ブラジルの大豆需給動向

（単位：万トン）

項目	2022/23年度	23/24年度	24/25年度	25/26年度	増減率 (%)
期首在庫	954.9	1,103.4	723.1	1,019.0	40.9
生産量	15,915.4	15,128.3	17,148.1	17,784.7	3.7
輸入量	18.1	82.1	96.9	50.0	▲48.4
総供給量	16,888.4	16,313.8	17,968.1	18,853.7	4.9
種子/その他	336.9	342.7	363.9	373.9	2.8
輸出量	10,187.0	9,881.5	10,818.1	11,438.1	5.7
加工量	5,261.2	5,366.5	5,767.1	6,087.9	5.6
総需要量	15,785.0	15,590.7	16,949.0	17,899.9	5.6
期末在庫	1,103.4	723.1	1,019.0	953.8	▲6.4

資料：CONAB

注：2026年3月13日公表データ。

（調査情報部）

## 中国

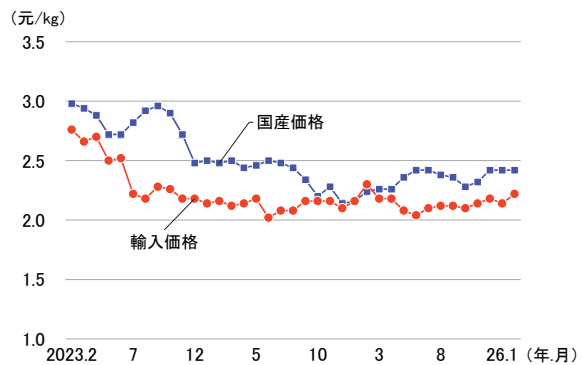
# トウモロコシおよび大豆の価格動向

## 26年2月の国産トウモロコシ価格、前月並み

中国農業農村部は2026年3月20日、「農産物需給動向分析月報（2026年2月）」を公表した。この中で、同年2月の国産トウモロコシ価格は前月並みとされた（図1）。同月のトウモロコシ需給を見ると、需要面では春節（旧正月。26年は2月17日）前に、在庫補充の動きが一時的な落ち着きを見せたが、春節が明けてコーンスターチ製造企業が稼働再開するとともに、高い水準にある豚飼養頭数から飼料需要も旺盛な中で、再び在庫補充に向けた積極的な買い付け意欲が高まっている。このため、市場には強気の見方が

広がっていることで、一部の穀物加工企業では買い付け価格を引き上げる動きが見られた。今後は、気温の上昇を受け、市場の取引

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

が活発化することで、国産トウモロコシ価格は堅調な推移が見込まれている。

輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産地の中国南部向け飼料原料集積地となる<sup>かんとん</sup>広東省<sup>こうほ</sup>黄埔港到着価格は、26年2月が1キログラム当たり2.22元（52円：1元＝23.41円<sup>注</sup>、前月比3.7%高）とやや上昇した。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）は同2.42元（57円、前月同）となり、国産価格が横ばいで推移する中で輸入価格が上昇したことから、輸入と国産の価格差は縮小した。

## 26年2月の国産大豆価格、前月からやや上昇

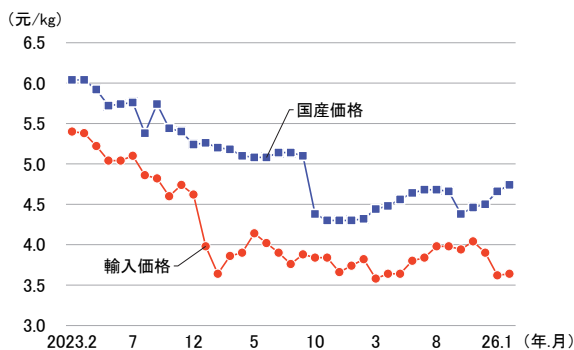
2026年2月の国産大豆価格は、前月からやや上昇した（図2）。同月の大豆需給を見ると、春節明けの在庫補充の動きが継続し

同価格を下支えしている中で、新学期が始まり給食などの消費需要が回復したことが、国産大豆価格を押し上げたとされる。短期的には、国産大豆価格は強含みで推移するものの、上昇幅は限定的と見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である<sup>こくりゅうこう</sup>黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、26年1月が1キログラム当たり4.22元（99円、前年同月比9.3%高）と前年同月をかなりの程度上回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる<sup>さんとう</sup>山東省の国産大豆価格も、同4.74元（111円、同9.7%高）とかなりの程度上昇した。同月の輸入大豆価格は同3.64元（85円、前月比0.6%高）とわずかに上昇したことで、輸入と国産の価格差は拡大した。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年3月末TTS相場。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

## 25/26年度のトウモロコシ輸入量は増加、大豆輸入量は減少の見通し

中国農業農村部は2026年3月10日、最新の「中国農産物需給状況分析」を公表した。この中で、25/26年度（10月～翌9月）のトウモロコシ輸入量は、前年度比3.3倍増となる600万トンと予測している（表1）。

一方、同年度の大豆輸入量は、同12.4%減の9580万トンと予測している（表2）。

表1 中国のトウモロコシ需給見通し（2026年3月10日中国農業農村部公表）

区分	—単位—	2023/24年度	24/25年度	25/26年度		前年度比 (増減率)
			(推計値)	(2月予測)	(3月予測)	
作付面積	(千ヘクタール)	44,219	44,741	44,961	44,961	0.5%
収穫面積	(千ヘクタール)	44,219	44,741	44,961	44,961	0.5%
単収	(キログラム/ヘクタール)	6,532	6,592	6,700	6,700	1.6%
生産量	(万トン)	28,884	29,492	30,124	30,124	2.1%
輸入量	(万トン)	2,341	183	600	600	227.9%
総供給量（生産量＋輸入量）	(万トン)	31,225	29,675	30,724	30,724	3.5%
消費量	(万トン)	29,500	29,786	29,902	29,902	0.4%
食用向け	(万トン)	991	1,000	1,010	1,010	1.0%
飼料向け	(万トン)	19,100	19,350	19,350	19,350	0.0%
工業向け	(万トン)	8,238	8,340	8,450	8,450	1.3%
種子向け	(万トン)	193	128	129	129	0.8%
その他向け	(万トン)	978	968	963	963	▲0.5%
輸出量	(万トン)	1	1	1	1	0.0%
総消費量（消費量＋輸出量）	(万トン)	29,501	29,787	29,903	29,903	0.4%
差引数量（総供給量－総消費量）	(万トン)	1,724	▲112	821	821	—

資料：中国農業農村部  
注：年度は10月～翌9月。

表2 中国の大豆需給見通し（2026年3月10日中国農業農村部公表）

区分	—単位—	2023/24年度	24/25年度	25/26年度		前年度比 (増減率)
			(推計値)	(2月予測)	(3月予測)	
作付面積	(千ヘクタール)	10,474	10,325	10,255	10,255	▲0.7%
収穫面積	(千ヘクタール)	10,474	10,325	10,255	10,255	▲0.7%
単収	(キログラム/ヘクタール)	1,990	2,000	2,039	2,039	2.0%
生産量	(万トン)	2,084	2,065	2,091	2,091	1.3%
輸入量	(万トン)	10,475	10,937	9,580	9,580	▲12.4%
総供給量（生産量＋輸入量）	(万トン)	12,559	13,002	11,671	11,671	▲10.2%
消費量	(万トン)	11,694	11,856	11,415	11,415	▲3.7%
搾油向け	(万トン)	9,750	9,890	9,420	9,420	▲4.8%
食用向け	(万トン)	1,535	1,560	1,585	1,585	1.6%
種子向け	(万トン)	89	88	89	89	1.1%
その他向け	(万トン)	320	318	321	321	0.9%
輸出量	(万トン)	7	8	15	15	87.5%
総消費量（消費量＋輸出量）	(万トン)	11,701	11,864	11,430	11,430	▲3.7%
差引数量（総供給量－総消費量）	(万トン)	858	1,138	241	241	▲78.8%

資料：中国農業農村部  
注：年度は10月～翌9月。

(調査情報部)